

昨年4月、新型コロナウイルスの脅威が世界に拡大し日本も緊急事態宣言下の暗い雰囲気になっていました。三井V-Net（以下V-Net）の活動も全て中止になり、寂しく感じていた頃、タイに帰国した留学生ギグさんから連絡をもらいました。シニアの私たちそして日本の状況を気遣っての優しい便りでした。

ギグさんと知り合ったのは10年ほど前、V-Net「里山を訪れる」のイベントでした。当時彼女は東京医科歯科大学の留学生だったので東大FACEの学生の友人としての参加でした。タイの留学生たちは団結が強く大学が違ってV-Netイベントには友人同士が誘いあい楽しく盛り上げてくれました。若い彼らにとってイベントは外国生活の楽しい一時だったのでしよう。

その後彼女は機会があるごとにV-Netのイベントに参加、日本の生活に慣れて会うたびに頼もしい女性になっていきました。確かに女性は生活に慣れると強い！観光地へは長距離サイクリング。自炊で健康管理。強い向学心で博士号取得。外見は静かなおっとり型でも中身は確りしたキャリアウーマンに変身していきました。

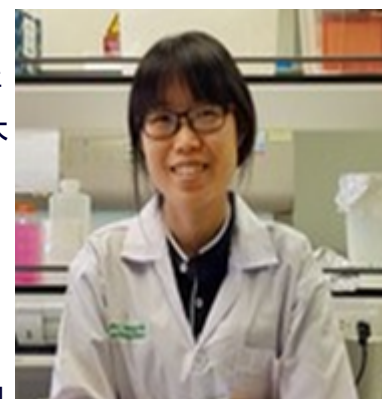
現在、彼女は日本で学んだことを生かし、タイの地元病院で活躍しています。今回PCR検査についての説明もしてくれたので一緒に紹介します。送ってくれた職場での彼女の写真を見て昔の初々しかった留学時代の彼女を思い出す会員の方もおられることでしょう。その留学生がタイの医療を支える大切な人材になっていることを私たちも誇りに感じます。

【ギグさんからの寄稿文】

## ゲノム情報を活用する

Sariya Dechamethakun (タイ)

私はタイ人でギグ(注:筆者のニックネーム)と申します。現在は遺伝子検査科学者としてタイの実家近くの大学病院でがんに関わる遺伝子検査の仕事をしています。10年前タイ国の薬学部を卒業し、日本の文部科学省の奨学金を受け5年間東京医科歯科大学で勉強しました。日本留学中は遺伝子レベルに基づいた個別化医療、遺伝子検査で疾患リスクを意識した生活習慣改善などの予防医療を研究してきました。博士号取得後、2年間日本企業と日本研究機関で遺伝子検査に関する仕事をして3年前タイに帰国し、現在に至っています。



新型コロナウイルスが騒がれはじめてPCR検査はなじみ深い言葉になりました。今回そのPCR診断について詳しく説明します。

PCRはPolymerase Chain Reactionの省略です。1983年に米国キャリー・マリス博士により開発された技術で分子生物学の標準的な手順です。博士はその功績により1993年にノーベル化学賞と日本国際賞を受賞しました。

PCRはわずかなDNAサンプルから一連の温度変化のサイクルを経て任意の遺伝子領域のコピーを百万倍にも増幅し、次の段階に十分な量にまで増幅することが目的です。その増幅した標的の遺伝子領域を広く応用されている範囲について、がん、感染症、白血病などの診断で使われています。

このようなゲノム情報を活用し、より効果的な疾患の診断、治療、予防を行うことは「ゲノム医療」と言われます。特に近年ではコロナ感染症での病原体診断に大きく貢献しています。

PCR法はいくつかの種類があるが、新型コロナウイルスの検査はリアルタイム PCRを使用しています。リアルタイム PCR法と従来のPCR法の違いはリアルタイムPCRにより標的DNAの増幅量をリアルタイムに測定し、その結果から目的DNAの有無迅速性と定量を行うことができます。新型コロナウイルス検査の場合、鼻の奥などから検体を採取し、ウイルス特有の遺伝子配列をリアルタイムPCR法で増幅し、ウイルスを検出することが可能になります。PCR法の応用に関して、医療以外に犯罪捜査にも役割を果たしています。

現在の私も日々主にPCR技術を用いたがんと白血病の診断、治療モニタリング、治療薬の選択のサービスを提供しています。留学前は遺伝子研究を直接経験しなかったが、日本の大学院と職場でゲノム医学の知識と経験を身に着けました。現在学んだことや身に着けた経験で社会に貢献できることを嬉しく感じます。

日本に留学した最初の頃、新しい環境に住むのはもちろん不安でした。三井V-Netのイベントに参加して、面白い経験を積むうちに日本人と交流でき、さまざまな留学生と友達になり、少しずつ日本の生活が楽しくなり慣れてきました。専門の勉強に加えて、日本人の考え方、例えば、他人と環境への配慮、事前準備など分かり成長したことは私にとって日本の滞在中のすてきな時間だと思います。今私は出会った皆さんのおかげで充実した生活を送っています。皆様に心から感謝を申し上げます。